

《第16回Wリーグ開幕会見 ヘッドコーチ・キャプテンコメント》



<佐藤清美ヘッドコーチ>

吉田は開幕には間に合わず復帰は年明け以降になると思いますが、戦い方としては変わらず昨年のファイナルのような形で行きたいと思っています。今年は16名の選手がエントリーしていますが、そのうち5名がケガで開幕に間に合わないということでチーム的には少しダウンしているかなと思います。ただ、最終的には7連覇に向けて頑張っていきたいと思っています。選手全員に期待していますが、やはりキャプテンの新原にチームをまとめるということで期待したいと思っています。

<新原茜キャプテン>

チームの現状は代表の渡嘉敷・間宮・宮澤・大沼がチームに合流しましたがまだ本調子ではありません。ただ経験のある選手たちですので試合を通して徐々に調子を上げてくれると思っています。個人としては昨年の経験が自信になっているので、これを武器に今シーズンも開幕から全力で戦っていききたいと思っています。



【デンソー アイリス】

<小嶋裕二三ヘッドコーチ>

昨シーズンファイナルに出場してチームはもとより私自身もとてもいい経験をしました。ただそれはもう終わったことで、今年はまたゼロからスタートしています。代表活動やケガなどで選手がそろわないこともありましたが、それは他のチーム同様その間に控え選手の底上げを図ってきたつもりでいます。ファイナルに行ければまたぜひ行きたいところですが、それよりも大事なことは開幕の一戦目から全試合最善を尽くして戦うということ、どれだけ自分たちができることをコートの上で発揮できるかということだと思いますので、遠くのことよりも目の前の一つ一つをしっかりと積み重ねて戦っていききたいと思っています。高田、大庭の代表組には是が非でも頑張ってもらいたいですし、代表にふさわしい活躍をしてもらいたいと思っています。また中堅どころの伊藤・牛田がかなり力をつけてきていると思いますので代表レベルのプレーができるようになってもらいたいと思っています。

<大庭久美子キャプテン>

昨シーズン初めてファイナルの舞台に立った経験は個人としてもチームとしても大きな自信につながったと思います。と同時に優勝するためにはもう一つ越えなければならぬ高い壁があるということも肌で感じることができました。今シーズンはチームとして得点力アップとリバウンドの強化を課題としてきました。得点力でもフォワードの得点力や、インサイド・アウトサイドのバランスの取れたどこからでも得点が取れるようなオフェンスを目指しています。強化していく中でコミュニケーションがとても大事だと思うので練習では細かい部分まで連携を取りながら確認していい状態で開幕を迎えられるのではないかと思います。



【トヨタ自動車 アンテロース】

<後藤敏博ヘッドコーチ>

優勝を目指して頑張りますが、まずはセミファイナル進出を目指しています。チームとしては今まではどちらかというと強いというよりは「上手い」というチームだったかと思いますが、上位に行くにはやはり「強い」チームにしなければいけないと思いましたが今年は強さという部分を強調していきたいと思います。チームの現状としてはケガ人が出てしまいましたが若い選手でいい選手がおり、楽しい反面不安もありますが6連覇している JX-ENEOS さんに胸を借りるつもりで精一杯やりたいと思います。チームプレーを中心にしているチームですので、キャプテンの鈴木がどれだけチームをまとめてくれるかというところがキーになると思いますし、期待しています。

<鈴木一実キャプテン>

昨シーズンは本当に大変悔しい結果になってしまいましたが、負けた日からその悔しさを一日たりとも忘れず今まで練習に励んできました。ベテランと若手の集結というチームとしてのまとまりが勝利につながると思っています。



【富士通 レッドウェーブ】

<BT テーブスヘッドコーチ>

兵庫ストークスでヘッドコーチをしていた時と同じくこのチームでも様々な課題に直面しています。選手たちに私の新しいスタイルを伝えるということ、オフェンスとディフェンスのシステムだけでなく練習の環境から変えていくことなどがその課題です。一番難しいのは恐らく悪い癖をなくしていくことです。また私が新しい挑戦をするにあたり、男子を指導するよりもより詳細な説明をすることを心がけています。いい日もあれば悪い日もあります。うちの選手は肉体的によく頑張ります。このプレシーズンはいろいろな面で成長しましたが、他のチーム同様ケガがあったり、3人の日本代表メンバーが抜け、その3人は戻ってきてから1か月弱で全く新しいシステムを覚えなければならなかったりとマイナス面もありました。今年とはびぬけた選手はいませんし、日本代表に選ばれたメンバーでさえもまだ安定していません。新人の篠崎は即戦力として期待しています。キーとなるのはチームバランスだと思っています。

<中畑恵里キャプテン>

今シーズンまずファイナルの舞台に立って頂点を目指す中でここが足りないというよりも、新しいシステムになっていますのでそれをしっかり徹底できるかどうか、またいかにヘッドコーチの言われていることを体現できるかにかかっていると思います。個人の課題としてはドライブや3ポイントを決めきるということと、私たちはディフェンスからプレッシャーをかけていかないと上位との争いができないと思うのでしっかり徹底していきたいと思います。

CHANSON V-MAGIC 【シャンソン化粧品 シャンソンVマジック】

<木村功ヘッドコーチ>

昨年は惜しいところでベスト4を逃しましたがそれは自チームに足りないところがあってそれは以前から明確になっています。それをどうやって攻略して解決するかがテーマですが、心技体で一番手っ取り早いのは「体」だと思っています。このチームはサイズはありますが体力的に「体 vs 体」で戦わない選手が多いのでそれがだいぶ大きく変化してきたと思います。4年目以下の若い選手を多く起用しているので、カギを握るのは藤吉など中堅・ベテラン、チームをけん引する選手がどういう自覚を持ってやっていってくれるかということ。プレーしている選手は同じですが、今年は全く違うチームになっています。やさしいいい子たちがそろっているチームですが、人格だとか人柄がちょっとよくてもこの競技は成り立たないので、そのあたり、「あ、シャンソンの選手は変わったな」とそういう風に皆さんに見ていただけたらと思っています。戦力的に大きな変更はありませんがインサイドが若いのでまだこれから一歩ずつ山を登る段階かと思えます。

<藤吉佐緒里キャプテン>

昨シーズンは自分たちの流れが悪い時にディフェンスも崩れてしまったことがあったのでそういう面でディフェンス強化もそうですが今年は脚力・フィジカルを強化してきたのでそこがゲームで生かせるかなと思っています。自分たちに必要なのは公式戦で自分たちがのびのびできるか、楽しくできるかだと思っているので、どういう場面でもいい表情、いい動作でプレーすることが自分たちのバスケットにつながると思って頑張っていきたいと思っています。



【三菱電機 コアラーズ】

<山下雄樹ヘッドコーチ>

日本代表選手がチームを不在にする期間が長かったのと、ケガ人が多かったのでもうやく今月から集中して練習できる態勢になりました。逆を言いますとそれら選手がいなかった間に若い選手たちがいい経験をしたというか、モチベーションが上がったというか、お互いの相乗効果が出まして、順調にいい状態で開幕を迎えられるかな、と思っています。全員バスケットで頑張りたいと思っていますが、その中でも特に新人に期待したいですが、あまり期待してはいけないだろうなと思います。新人にはのびのびとプレーしてもらって追い風となるように使っていきたいと思っています。特に期待しているのはキャプテンの佐藤と副キャプテンの風間。やはり我々のチームはチーム力が強みですので、この二人が背中でリーダーシップを発揮できるかというのがキーになってくるのではないかと思います。新潟の衛藤さんも言われましたが、佐藤と心中するつもりで頑張りたいと思っています。

<佐藤梓キャプテン>

昨シーズンはあと一歩というところでベスト4に入ることができず、一人一人が悔しい思いをしてきたので、その悔しいという気持ちを忘れず、大切にしてここまでやってきました。昨シーズンコートにあまり立つことができなかった選手が多かったので、今年はその面で一人でも多くの選手がコートに立って山下ヘッドコーチが言われたようにチーム力で戦いたいと思っています。



【トヨタ紡織 サンシャインラビッツ】

＜中川文一ヘッドコーチ＞

3年目となりますが、指導していることをだいたい選手が理解できるようになったと思います。私はパッシング、あまりドリブルを使わないバスケットを得意としていますが、昨年はそのことで逆に1on1の力が弱くなり得点が取れなかったため、今年はパッシングの中でゴールに向かう気持ち、「ゴールアタック」と「ゴールゲッ」ということに力を入れ、とにかく得点を取りに行こうということでそれぞれの選手が得点をどこからでも取れるというチームにしていきたいと思っています。昨シーズンの前半は点数が取れないために玉砕され、後半に守りに力を入れたことで少しチームが安定したと思っていますが、それに加えて今年はいかに得点を取るかということの主眼にしてやっていきたいと思っています。うちの選手はとても勤勉で真面目なのですがちょっと物足りない、それは「受け身」だということ。自分で「これをするんだ」という意思が弱いので、選手たちが「自分たちがやるんだ」という気持ちをしっかり持って今やっている練習を表現できればいい戦いができるのではないかと考えています。そのあたり、渡邊や長部が積極的に出してくれれば、下もついてくると思います。新人選手も2名入りましたが、彼女たちにも期待しています。

＜渡邊佳恵キャプテン＞

今チームとしては中川ヘッドコーチからもお話があった1on1について、それぞれのポジションでうまくいっているのではないかと考えています。まだまだこれから課題としてやっていかなければならないことは、リバウンドを取りきること。オフェンスリバウンドもディフェンスリバウンドも取りきることが自分たちには大切だと思っています。



【新潟アルビレックスBBラビッツ】

＜衛藤晃平ヘッドコーチ＞

昨シーズンはケガ人が多く、普段の練習も7～8人で行うという厳しいシーズンでした。それに比べて今年はオフシーズンに1名がオペをしましたがあとはケガもなくここまですごく順調に来ています。我々は4シーズン目を迎えますが、キャプテンの星のおかげで初めてチームらしくなってきたな、と実感しています。我々は大きい選手も抜群のセンスを持った選手もおりませんが、一人一人がバスケットボールにかける情熱をコート上に出してくれるチームだと思っています。スローガン通り「チーム一丸」となってシーズンを楽しみたいと思っています。チーム全員の活躍を期待していますが、私個人の思いとしては、キャプテンの星のおかげで今のチームがありますし、彼女のおかげでチームになっていますので、彼女と心中する気持ちでシーズンを迎えたいと思います。

＜星希望キャプテン＞

衛藤ヘッドコーチになって2年目になりますが、昨年からはヘッドコーチがやりたいバスケットというものは何度もミーティングや練習を通じて伝えていただきました。私はキャプテンとしてガードとしてそのヘッドコーチの思いを自分の中でまずは自分のものにしてそれをバスケットとしてしっかり表現できるようにここまでリーダーシップと取って準備してきたつもりです。今のチームの状態としてはケガ人もなくすごくいい状態でここまで準備してこられました。あとは気持ちの強さ、個人個人の気持ちが表れてチームになればすごいチームになれると自信を持っています。



【アイシン・エイ・ダブリュ ウィングス】

＜李玉慈ヘッドコーチ＞

再び日本で指揮を執ることを光栄に思っています。チームの課題としては、とりあえず体作り、体力をつけるということと、個人技のレベルを少しでも上げるということです。「簡単に負けない」ということを課題に挙げてここまで強化してきました。個人技はまだまだ足りないところはたくさんありますが、体力がついてきたことでチームが一つとなって戦えば粘り強くしこいディフェンスができるのではないかと考えています。ベテランの前田が昨シーズンはケガで1年間棒に振りましたが、今年は完璧に戻りましたので期待していますし、ガードの小泉が以前よりもかなり動きがよくなっていると思いますし、チームを引っ張る力がついてきたなと思っています。

＜佐藤朱華キャプテン＞

個人的には昨シーズンは出来不出来の波が激しかったのですが、調子の波がある中でもディフェンスはそれとは関係なくできることだと思うので、今年はディフェンスを頑張りたいと思っています。チームとしては「ONE TEAM」をスローガンに掲げてここまでやってきました。個人ではなくチームで戦っていくアイシンAWをぜひ見てほしいと思います。



【日立ハイテク クーガーズ】

＜菊地哲博ヘッドコーチ＞

昨シーズンはどちらかというとオフェンス中心のチームスタイルで、得点は挙げているが失点が多いところがあったので、今シーズンはどちらかというと失点を抑えて得点を取っていくというスタイルでやってきています。特に天野・池内はインサイドで得点が取れるので、それにガード陣の速いトランジションで得点につなげていくか、ということを中心に戦いたいと思います。今シーズンは天野・池内には昨シーズン多くみられたアウトサイドよりもインサイドに重点を置かせ、今シーズンコーチに迎えた塩屋が指導にあたり、サマーキャンプでもインサイドでの得点は大きかったのでそこを中心に考えていますし、昨シーズンはケガで思うようなプレーができなかった山田が復帰するので引退した小笠原の代わりに得点をいかに稼いでくれるかということ、あとは有山含めガード陣がディフェンスを頑張るそこからのトランジションをつなげていくかということに期待していただければと思います。

＜有山景子キャプテン＞

昨シーズンはディフェンスで失点が多いという課題があったので、今シーズンはチームディフェンスを中心に強化を進めてきました。それに加え、昨年からの強みであった速い展開を目指しています。チームは若い選手が多く波が激しいので、そこを平均して自分たちのバスケットが出せるようにしていくのが今後の課題かと思っています。



<星澤純一ヘッドコーチ>

昨年33試合をお借りしてチーム強化をしてきました。今年もシーズンの30試合で自分たちの将来のための中長期計画の中の強化の1年と位置づけ上位チームの皆さんに力を貸していただき、数年後には公式戦でお礼をしたいなと思っております。チームの状況は大学のトップレベルの選手が入団してくれて自分がやりたいと思っているバスケットボール、ディフェンスの面白みをチェンジングというところで皆さんに見ていただけたらと思っています。新人の落合がガードとしてサマーキャンプでもだいぶ活躍してくれました。また、同じく新人の安江、大学ではスタートメンバーではありませんでしたが運動能力に優れているので是非この選手を時間をかけてリーグを通して成長させたいと思っています。また、昨年加入してくれた教え子でもある森本が、ガード・フォワード・センターの軸となってチームを引っ張って行ってくれるのではないかとと思っています。

<森本由樹キャプテン>

昨年5シーズンぶりにWリーグに復帰しました。私自身高校の時から星澤先生指導のもと1on1が得意のプレーだったのですが、やはりなかなか自分の思うようなプレーができず、シュートのアベレージも低かったので反省しています。今年はチャンスがあるときにはシュートを狙い、チームの勝利に貢献できたらいいなと思っています。チームとしては若い選手が入りましたがその分浮き沈みが激しい部分があるので今はそこを開幕に向けて引き締めているところで徐々に士気は上がってきています。